



公立の受検方法について(前期)

今回は、公立高等学校の受検方法について説明します。

公立高校は、前期選抜、中期選抜、後期選抜の3段階に分けて受検をします。

前期選抜

2月中旬に実施。受検機会を複数化し、多面的な評価尺度による選抜を行います。

学科ごとの方式、募集の割合、検査項目などは学校によって異なります。(報告書は3年間の評定になります。)

全日制普通科は定員の30%を前期で募集しています。公立高校を第1志望に考えている人は、受検機会が増えるので、全員と言っていいほど受検します。ということで、30%しか募集していないので、残念な結果となる人が多数出ます。

※毎年の感じでは受験生の4割ぐらいしか合格をもらえま

せんので、前期を受検する人は、「合格したら、ラッキー」という考えで受検するのがいいと思います。「だめだった」とがっかりしてしまって、次の受検に響くようでは、何にもなりません。

30%の内訳は、A方式(学力検査)+(報告書)+(面接 or 作文、または両方)

B方式(報告書)+(面接 or 作文、または両方)+(活動実績報告書)

の合計で30%です。

学力検査は国語、数学、英語の3教科。問題は、共通問題(全高校同じ問題)と独自問題(その学校独自で作っている問題)があります。報告書というのは、みんなが中学校3年間の成績がそこに入ります。

全日制普通科スポーツ総合専攻、美術・工芸専攻は定員の100%を前期ですべて募集するので、中期選抜では受けられません。C方式(学力検査)+(報告書)+(面接 or 作文、または両方)+(活動実績報告書)+(実技検査)での受験となります。

全日制専門学科は、農業・工業・商業・水産・情報は定員の70%を募集、福祉・体育・音楽・美術は定員の100%を募集します。

また、その他の専門学科は定員の100%を募集します。(山城文理、鳥羽グローバル、嵯峨野こすもす、桃山自然科学、紫野アカデミア、堀川探究、西京エンプラ、工学院フロンティア、城南菱創教養科学、京都八幡人間科学など)

その他の専門学科は、5教科の学力検査があるところがほとんどです。

※前期選抜の「求める生徒像」など、詳しい内容は、9月ごろに各自に配布されます。

